

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：アレルギー、創薬、ステロイド抵抗性

ステロイド抵抗性アレルギーモデル

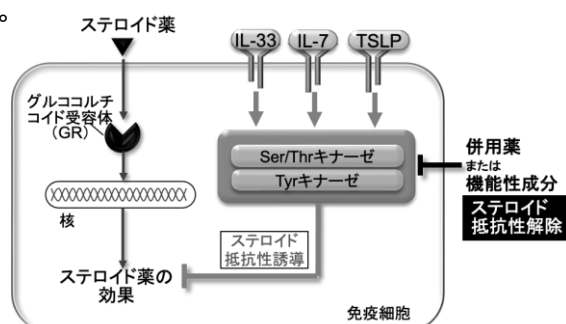
薬学部 薬学科 教授
奈邊 健 NABE Takeshi

研究の内容

喘息、アトピー性皮膚炎、花粉症などのアレルギー疾患の治療には、ステロイド薬が広く用いられています。しかし、一部の患者さんではステロイド薬が十分に効かず、症状のコントロールが難しいことがあります。このような「ステロイド抵抗性」は、難治性アレルギー疾患の大きな課題となっています。

私たちの研究室では、ステロイドが効きにくいアレルギー疾患の実験モデルを用いて、その原因となる仕組みの解明に取り組んできました。これまでの研究から、免疫細胞が複数の炎症性サイトカインの刺激を受けることで、JAK（ヤヌスキナーゼ）やmTORといった細胞内分子が活性化し、ステロイド抵抗性が誘導されることを明らかにしました。

現在は、ステロイド抵抗性が生じる分子メカニズムをさらに詳しく解析するとともに、その知見をもとに、難治性アレルギー疾患をより効果的に治療する方法や、ステロイド薬の使用量を減らしながら良好な治療効果を得るための新しい治療戦略の開発を目指しています。



免疫細胞におけるステロイド抵抗性誘導の機序および解除（仮説）

産学連携・社会連携へのアピールポイント

難治性アレルギー疾患の治療にステロイド薬は重要な治療薬ですが、ステロイドが効きにくくなって高用量で使用すると副作用が課題となります。本研究は、ステロイドが効きにくくなる仕組みを解明し、その効果を高める併用薬や機能性成分の開発につなげることを目指しています。将来的には、より少ないステロイド量で高い治療効果を得る新たな治療戦略の確立が期待されます。

薬効薬理学研究室

URL : <https://www.setsunan.ac.jp/~p-yakko/>

